



疲労外来の膨大なカルテをスキャン。手書き情報を診療にフル活用 スクエアクリニック 本間龍介様・本間良子様

神奈川県川崎市幸区のビジネスビルにある「スクエアクリニック」は、深刻な疲れを引き起こす「アドレナル・ファティーグ（副腎疲労）」の専門的な治療を行う「アドレナル・ファティーグ外来（疲労外来）」を備えたクリニックだ。現代社会に蔓延する疲れに正しく対処し、治療するために欠かせないのが大量の紙カルテ。その整理と活用に活躍し、きめ細かく適切な診療を助けているのが「ScanSnap iX500」だ。



スクエアクリニック 本間龍介様・本間良子様

夫妻ともに聖マリアンナ医科大学医学部卒業、日本抗加齢医学専門医、米国抗加齢医学フェロー。アドレナル・ファティーグの提唱者、ウィルソン博士に夫妻で師事し、現在はアドレナル・ファティーグ治療のほか、デトックスやダイエットなど抗加齢医学（アンチエイジング）に属する自由診療を手がけている。

大量の問診票と検査結果を含む「ノートとしてのカルテ」をスムーズに電子化

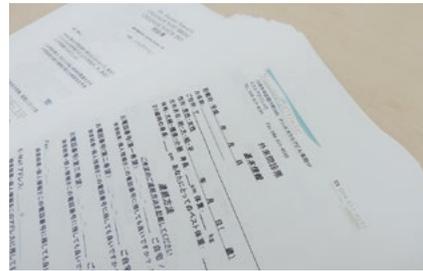
深刻な疲れに悩む人が続々と訪れる

「スクエアクリニック」の診療の内容は、二つに大きく分かれている。午前中に行うのは内科と皮膚科の保険診療。風邪や高血圧といった、いわば一般的な疾病を治療する「かかりつけ医」の役割だ。それが火曜日と木曜日の午後、自由診療へと切り替わる。特に積極的に行っているのが「アドレナル・ファティーグ（副腎疲労）」の診療だ。従来の医療では原因不明とされることの多い深刻な疲れに悩む人たちに対し、主にアドレナル・ファティーグの見地から専門的かつ効果的な治療を行うのだ。アメリカでは常識的な診療だが、日本では保険の適用外となり、初診料だけでも30万円を超える。だが生活に破綻をきたすほどの疲れに悩む人々（成人男女はもちろん、引きこもりの若者や登校できない小学生も）が、日本全国から引きも切らずに訪れる。

「ScanSnap iX500」が大きな力を発揮するのは、この自由診療においてだ。その理由と具体的な活用法を、妻で院長の本間良子さんとともにこの診療に携わる、副院長の本間龍介さんに聞いた。

診療には手書きの情報が欠かせない

「日本の医学界には、ストレスを解放してマネジメントする方法が、薬でいえば抗うつ薬と睡眠導入剤しかありません。それ自体が悪いわけではありませんが、治らない方もたくさんいらっしゃいます。それに対して私たちは食事をメインに、寝る時間からシャブーや歯磨きに至るまでの生活習慣について、多くをアドバイスさせていただきます。私たちは実は治療者ではなく、その方の生活を一緒に補正する、マラソンの伴走者なんです」



アドレナル・ファティーグ外来の問診票。20枚を超える量だ。奥はテスト用紙の一例で、これもまた何枚にも及ぶ。



アドレナル・ファティーグ外来で大きな力を発揮する「ScanSnap iX500」。



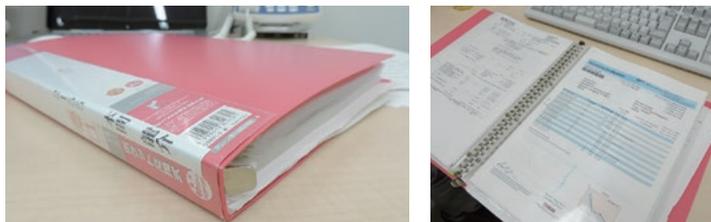
良子さん著・龍介さん監修で本も上梓した。『しつこい疲れは副腎疲労が原因だった』（祥伝社黄金文庫）



二人三脚で保険診療と自由診療を毎日こなしている本間龍介さん・良子さん夫妻。

生活習慣の改善やサプリメントの補助的な利用によって副腎を疲労から回復させ、ホルモンの正しい分泌を促すのがこの診療の根幹だ。そのためには悩みを抱える人を深く理解し、「寄り添う」必要が生じる。ここで欠かせないのが問診票だ。初診では訪れた人に、2時間近くかけて問診票や各種のテスト用紙を記入してもらう。それらは病歴、疲れチェック、食事記録など多岐にわたり、用紙はそれぞれ20枚を超える。これが最初の手がかりだ。「たとえば筆跡や筆圧は、その方の疲れの度合いを如実に示します。また、一日の生活を図で自由に書き表していただくと、細か

いニュアンスまでよくわかります。そもそも一人の方の人生を書くのに 20 枚や 30 枚の紙で足りるわけはありませんから、追加でいろいろ聞かせていただいて、印やメモも書き加えていきます。こうした手書き情報は、いつ見返してもそのときの雰囲気までありありと蘇ってきますし、経過を絵的にパッと思い出すことができます。いわば患者さんと医師を結ぶ『ノート』ですね。これは医療において非常に重要であるにもかかわらず、電子カルテ化によって失われつつあります。電子カルテには利点も多々ありますが、この診療に限っては紙のカルテが絶対に不可欠です」



一人分のカルテの一例。初診時の問診票から検査結果の出力紙まで、大量の紙がファイルされている。

これにストレスホルモンや食物アレルギーの検査など、アメリカの専門会社に分析を依頼した数十種類の検査結果も加わる。それらも必ず、いったん紙で出力する。

「一緒に見ながら、『ほら、この数値が』と印をつけたり丸で囲んだりしながら、その方との対話を重ねていきます」

それらの紙をファイルしたものが、すなわちカルテだ。カルテは一人につき、優にファイル一冊分の厚さにはなる。診療に不可欠なカルテだが、問題は保管だ。疲労外来に通う人の数は常時 200~300 人ほど。これに快癒した人たちのカルテもあるため、年に段ボール 10 箱分もの紙が発生する。保管スペースと、すぐ取り出せる手軽さの確保が非常に難しい。これを見事に解決したのが「ScanSnap iX500」だった。

大量のカルテを「iX500」でデジタル化

「『iX500』はスキャンが速く、紙づまりもほとんどありません。この高い性能がなければ、そもそも紙のカルテをデジタル化しようとは考えなかったかもしれません」

「iX500」なら、膨大な枚数の紙カルテもどんどんデジタル化していける。最大のポイントは、筆跡や筆圧、書き込んだ印など、重要な情報をそのまま保持してデジタル化できることだ。

「スキャンして医療機関向けのプライベートクラウドで管理すれば、PC でも iPad でも簡単に見ることができます。診療を手伝っている地方のクリニックのカルテも共有できますし、出張時に患



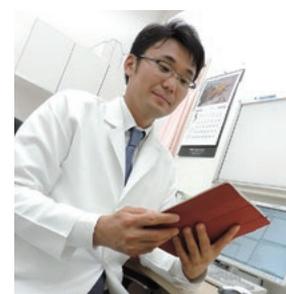
カルテを「iX500」で一気に高速スキャン。

者さんから連絡や問い合わせがあっても、カルテを手元で確認して「心配ありませんよ」と伝えることもできます」

本間さん夫妻は講演や学会で外出する機会も多い。だが「iX500」があれば、カルテの素早い閲覧という点で、治療のきめ細かさはむしろ上がり、訪れる人の期待に応えることができる。



スキャンした過去の検査結果を PC で表示し、患者と一緒に見ながら「経過がいいですね」といった対話を重ねる。



iPad を活用してどこからでもカルテを閲覧することができる。

保険診療で生じる紙のデジタル化にも有効

将来的には通常の保険診療で発生する大量の紙もスキャンしていきたいと本間さんは言う。インフルエンザの予防接種だけでも問診票は 1 シーズンに 600~700 枚。保険診療は電子カルテだが、それでも大量の紙が発生するのだ。個人経営のクリニックにとって常に悩みの種となる紙の保管問題を解決できれば、その時間やスペースを診療の質的向上のために使える。

「保険診療と自由診療を両立するのは正直なところ大変です。でもアドレナル・ファティーグの治療はやり甲斐があります。疲れれている方が元気になるのを見るのは医師冥利に尽きるんです」

実はかつて本間さん自身、研究と診療の毎日の中で、長く疲れの「どん底」にいた。だが同業の妻・良子さんがアドレナル・ファティーグの本を見つけたことをきっかけに、二人でアメリカに渡って治療を受け、また自らもそれを専門の一つとするようになった。夫妻はこの分野における日本のパイオニアなのだ。そのお二人を今、「ScanSnap iX500」は力強くサポートしている。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。本事例におけるスキャンは、私的利用の範囲が、または、著作権法上問題のない資料等が対象とされています。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月~金曜日 10時~12時、13時~17時(当社休業日除く)
E-mail: scanners@pfu.fujitsu.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>